



[海の状況 (9/21~10/20)]

神子表面水温……期間の始めはかなり低め(平年より1.0~1.5℃程度低め)、以降は変動がみられるものの、ほぼ平年並み(平年より±0.5℃程度)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間全体をとおして、はなはだ低め(平年より2.0℃程度低め)からやや低め(平年より0.5~1.0℃程度低め)で推移した(図2)。

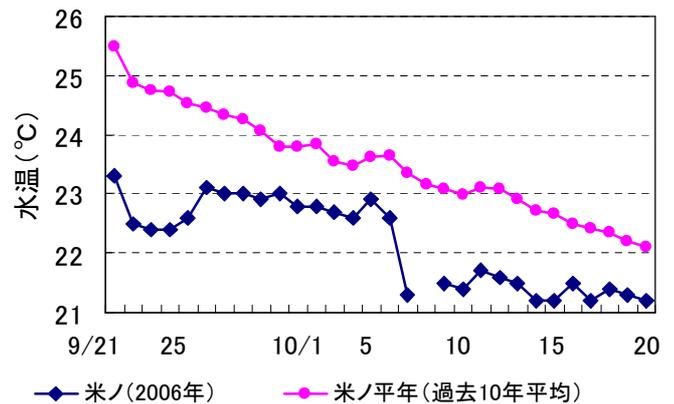
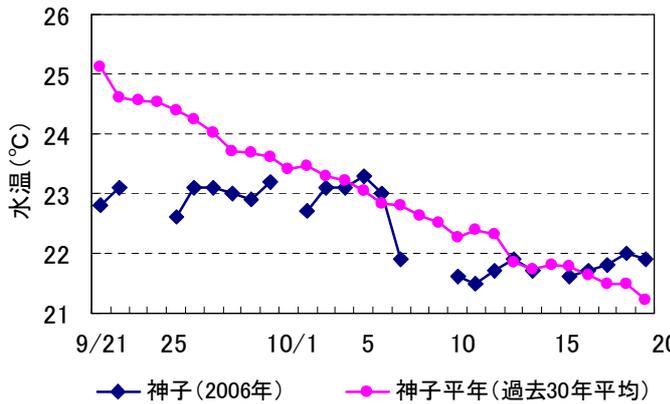


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……鳥取~若狭湾沖にかけて山陰若狭沖冷水域の張り出しがみられ、若狭湾沿岸域には15~16℃台の水域が広がっていた。

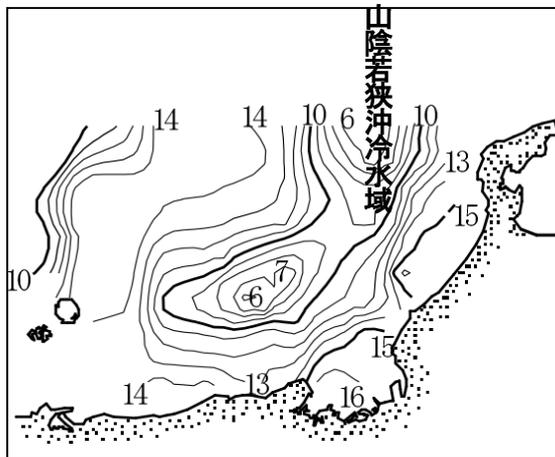


図3 2006年10月上旬の100m深水温

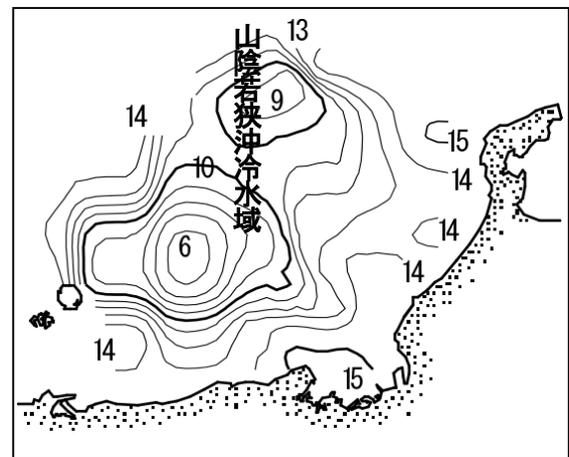


図4 2005年10月上旬の100m深水温

平成18年度第3回日本海海況予報

日本海区水産研究所が、平成18年10月から12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介いたします。

○山陰若狭沖冷水は、8月まで規模は大きく接岸、9月になると規模は大きいものの接岸状況は平年並みで推移した。今後の張り出しは“やや強め”で経過するでしょう。

○対馬暖流域の表面水温は、8月まではほぼ全域で“平年並み”~“やや低め”、9月になるとほぼ全域で“平年並み”~“やや高め”で推移した。今後は“やや高め”で経過するでしょう

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では9月までは“平年並み”~“やや低め”で推移した。今後は“やや低め”で経過するでしょう。

(松宮 由太佳)

〔漁の模様〕

2006年9月の県内の総水揚量は1,072tで、2005年同月を112t上回った。アジ類(2006年;58t, 2005年;74t、以下同じ)、アカガレイ(45t, 58t)、フグ類(6t, 27t)、ケンサキイカ(7t, 21t)等は下回ったものの、カタクチイワシ(20t, 0t)、サバ類(40t, 22t)、ブリ類(186t, 134t)、ヒラマサ[カンパチ](25t, 15t)、サワラ(279t, 253t)、その他カレイ(77t, 57t)、アカエビ(71t, 51t)等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類、フグ類、ケンサキイカ等は下回ったものの、カタクチイワシ、サバ類(、ブリ類、ヒラマサ[カンパチ]、サワラ等は上回り、全体で前年を72t上回った。

底びき網 ……キダイ、アカガレイ等は下回ったものの、その他カレイ、アカエビ等は上回り、全体で昨年を42t上回った。

釣り・他 ……タチウオ、ケンサキイカ、ソデイカ等は下回ったものの、ブリ類、マダイ、スルメイカ、タコ類等は上回り、全体では前年並みの漁獲となった。

〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
カタクチイワシ	19,622	30	24,319
アジ類	56,088	72,733	79,789
サバ類	39,701	22,077	38,210
マグロ類	86	2,170	5,025
カジキ類	7,834	4,028	13,465
カツオ類	2,196	2,247	15,595
ブリ類	182,239	133,665	178,849
ヒラマサ[カンパチ]	24,413	14,489	12,461
シイラ	38,418	41,143	69,369
サワラ	279,023	253,371	104,508
マダイ	2,587	2,425	3,431
スズキ	676	1,427	946
カマス	9,429	6,649	24,786
フグ類	6,028	27,391	18,819
アオリイカ	6,880	7,303	10,293
ケンサキイカ	2,400	10,100	5,139
ソデイカ	1,448	831	6,375
その他	15,088	19,951	28,909
合計	694,156	622,030	640,289

底びき網のつぎ			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
その他エビ	4992.88	4237.89	7092.782
その他	76,112	57,467	67,226
合計	303,037	260,867	314,969

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
アジ類	947	1,416	1,083
サバ類	265	163	199
ブリ類	4,214	439	975
ヒラマサ	226	40	689
シイラ	26	394	130
サワラ	114	91	35
マダイ	3,713	2,312	4,632
キダイ	5,680	4,448	3,758
アマダイ	5,726	4,476	5,734
スズキ	454	364	345
ヒラメ	800	386	873
タチウオ	69	598	339
アナゴ	396	214	387
メバル類	2,841	2,937	3,276
キス類	342	795	441
スルメイカ	2,941	521	13,064
アオリイカ	3,162	3,065	4,890
ケンサキイカ	4,145	10,643	15,354
ソデイカ	6,920	9,369	44,265
タコ類	7,813	5,144	5,719
その他エビ	493	846	705
その他	23,443	28,160	38,824
合計	74,730	76,821	145,715

底びき網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
マダイ	1,756	2,399	3,645
キダイ	5,820	9,590	10,322
アマダイ	1,181	1,297	1,656
アカガレイ	44,570	58,232	78,680
その他カレイ	76,962	56,426	69,107
アナゴ	2,688	3,719	4,721
ハタハタ	3,288	1,573	2,182
ニギス	3,620	5,140	17,180
ヤリイカ	1,455	150	683
タコ類	9,913	9,439	3,895
アカエビ	70,679	51,197	48,580

総計	2006年	2005年	96-05平均
	1,071,924	959,718	1,172,173

〔近府県の漁模様〕

(9月下旬から10月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… フクラギ263kg、サバ155kg、サワラ126kg、アジ72kg、シイラ51kg

京都府 …… 定置網 …… サワラ10.2t、ブリ7.1t、カタクチイワシ3.0t、マアジ2.0t

兵庫県 …… 定置網 …… アジ242kg、カワハギ91kg、ツバス55kg、アオリイカ32kg

鳥取県 …… まき網 …… マアジ14.1t、マサバ9.0t、カタクチ7.9t、ウルメ4.7t、マイワシ3.6t

(松宮 由太佳)

「魚に宿る虫」

今回は、市場に水揚げされた魚類に寄生していた2種類の寄生虫について紹介します。寄生虫と言うとスルメイカ等に寄生する「アニサキス」やトラフグ、ブリの体表に寄生する「はだむし」をご存じと思います。「アニサキス」は場合によって人体に被害を与えたり、「ハダムシ」は魚にストレスを与え死に至らしめることもあります。今回紹介する寄生虫は、魚に被害を与えるようなものではなく言わば共生に近いものです。この寄生虫なら知っているけれど名前までは知らないという方もいると思いますので、これを機会に名まえを知っていただけたら幸いです。

まず、サヨリに寄生している「サヨリヤドリムシ」から紹介します。この寄生虫はサヨリ曳き網で漁獲され嶺南の市場に水揚げされたサヨリに寄生していました。「サヨリヤドリムシ」は海産魚の鰓に寄生する大型の寄生虫で体色は乳白色、大きさは約10mmでした。サヨリ1尾あたり1〜3個体寄生しており、約860尾のサヨリを調べたところ、約50%という高い率で寄生していました。



「鰓に寄生している状態」



「サヨリヤドリムシ」

次に「メダマイカリムシ」です。若狭湾でこぎ刺し網によって漁獲されたアマダイに寄生していました。アマダイの目の上に眉毛でもあるのか？と見えるように寄生していました。体色は赤茶色で大きさは約10mm、胴体をつぶすと中から血液が出てきました。また、体の一部が眼球内に食い込んでおり、簡単に取り除くことができず途中から千切れてしまいました。樹根のようなものが眼球内に入り込み、錨のようになって固定しているためです。約150尾中2尾のアマダイに寄生していました。



「眼球の上に寄生している状態」



「メダマイカリムシ (定規上)」

2種の寄生虫を紹介しましたがほんの一例です。また見つかりましたら記載しますが、珍しい寄生虫を見かけたらご一報ください。すぐにでもお邪魔して調べてみます。

(川代 雅和)

大型クラゲに負けるな II

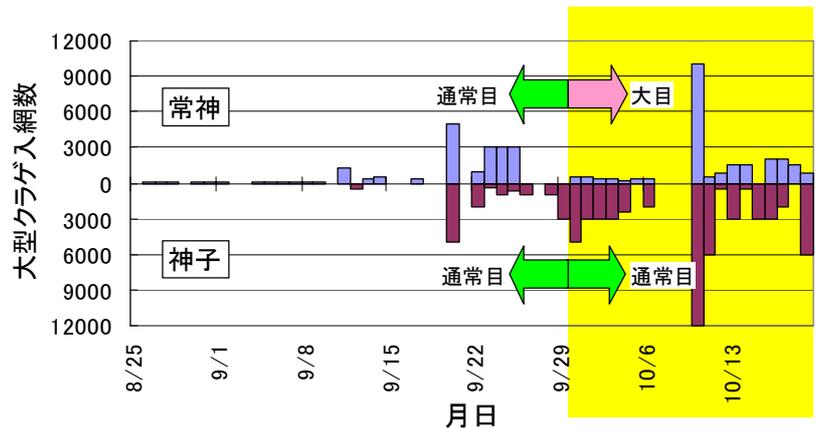
今年も大型クラゲがやってきました。福井県沿岸での初見は昨年よりも遅かったものの、当初の予想に反して昨年並みの数が押し寄せています。今年のカラゲは、20~30cmの小型のものから1mを超える大型のものまで大きさが様々で、その対応に苦労されていることと思います。

このような状況の中で、常神須崎定置網組合では大目垣網を設置して好成績を上げています。カラゲの入網状況や、漁獲の状況を簡単にまとめましたので紹介します。

【大型カラゲの入網状況：大目垣網の効果】

常神では8月26日に初めて大型カラゲが入網し、9月の下旬頃から1,000個体を上回る入網となり、若狭町内の他の定置でも同様の入網が続いたこともあって、9月末に大目垣網(8尺目、170間)を設置しました。

図1は大型カラゲの入網数を隣接する神子定置と比較したものです。大目垣網を設置するまでは、常神への入網数は神子よりも多かったのですが、大目垣網設置後は神子よりも少ない日が多くなっています。



常神と神子の操業日ごとのカラゲの入網数を比較すると、神子に1,000個体の入網があった場合、常神には3,200個体のカラゲが入網したが、大目設置以降は700個体の入網で済んだという計算になります。すなわち、入網数を約2割にまで減らせたということです。これは、昨年行った和田定置や日向定置の場合と同じ結果で、大目垣網の設置はカラゲの入網阻止に大きな効果があることを示しています。

【漁獲への影響】

大型カラゲの出現が多くなった9月、10月について、この時期、漁獲の多いサワラ類とブリ類の漁獲量を過去2年と比較しました。

サワラ類については、今年の9月は、2004年・2005年に比べて1/3~1/4と少なかったのですが、今年の10月17日までの水揚げは、2004年10月の1割にも満たないものの、2005年よりはすでに多くなっています。

ブリ類については、今年の9月は、2004年・2005年の7~22倍の水揚げとなっており、10月についても17日までの水揚げにもかかわらず、すでに2004年・2005年の10月総水揚げの10~29倍となっています。

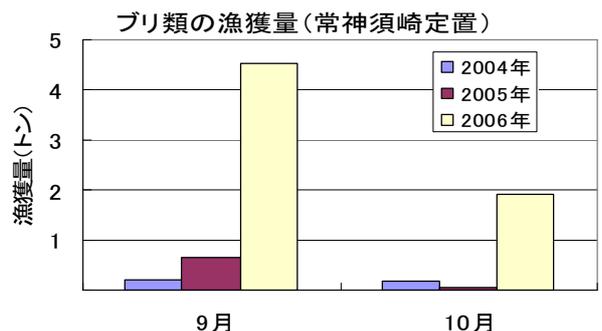
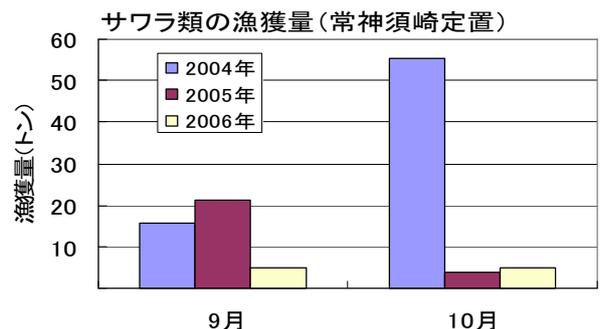
これらの結果をみる限り、大目垣網の設置によって漁獲量が特に減少したとは考えられません。

【まとめ】

このように、大目垣網はカラゲの入網数低減に大きな効果があり、漁獲への影響は少ないと考えられます。

現在、他に3カ所の定置が大目垣網を設置していますので、それらの状況も検討し、さらに大目垣網の効果・影響を調べたいと思います。

また、島根県では大目垣網が時化に強いと報告されています。昨年、大目垣網を購入された定置におかれては、後1~2ヵ月の操業でしようが、大目垣網を設置されることをお勧めします。



(杉本 剛士)